

定期作況報告

平成29年10月
(10月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

9月下旬：最高気温は平年並で、最低気温は平年よりやや低く、平均気温は平年並であった。降水量は平年よりやや少なかった（平年比74%）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比79%）。

10月上旬：最高気温は平年よりやや高く、最低気温および平均気温はともに平年並であった。降水は観測されなかった（平年比0%）。日照時間は平年並であった（平年比93%）。

10月中旬：最高気温は平年より極めて低く、最低気温は平年より低く、平均気温は平年より極めて低かった。降水量は平年より少なかった（平年比20%）。日照時間は平年並であった（平年比91%）。

以上のことから、この1か月間（9月下旬～10月中旬）は、気温は平年よりやや低く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並であった。

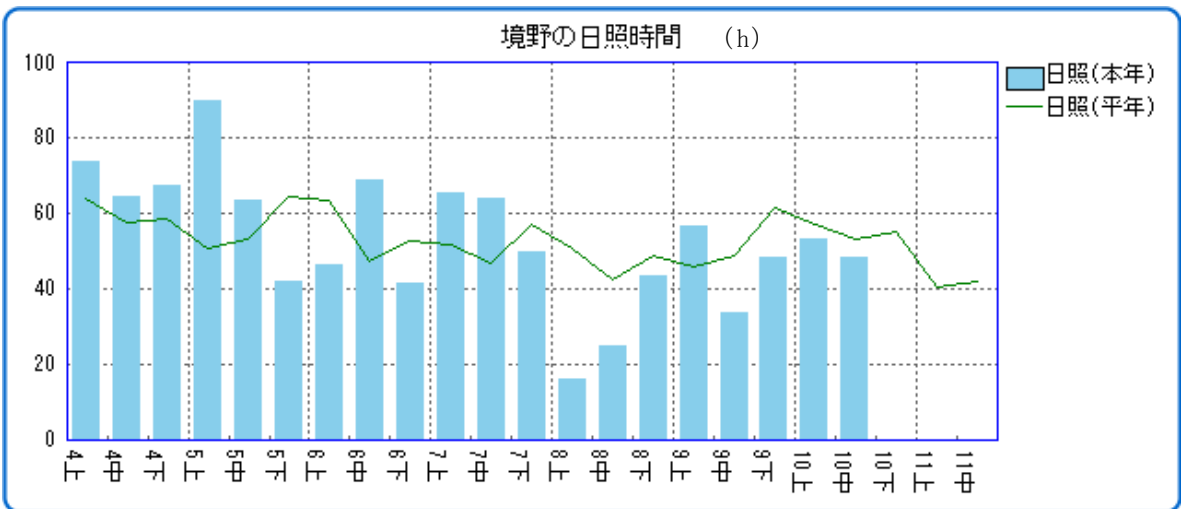
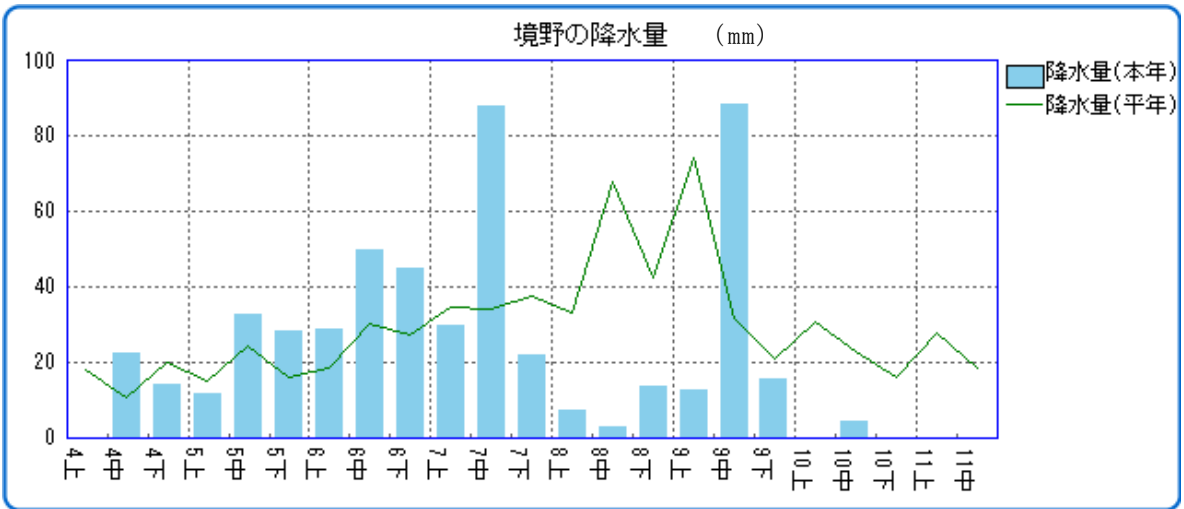
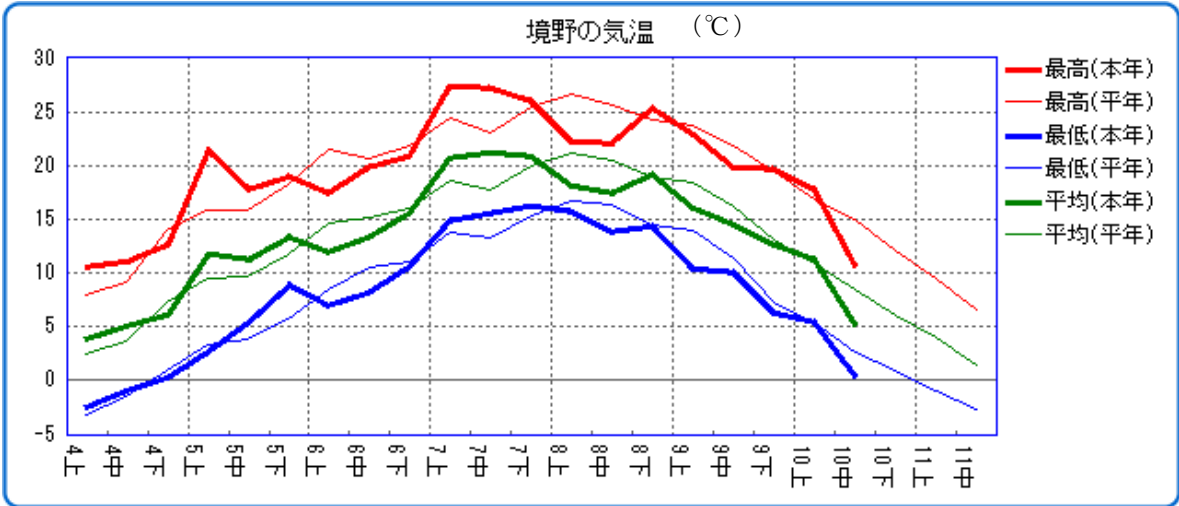
気 象 表

月 旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
9月 下旬	12.7	13.1	-0.4	19.7	19.4	0.3	6.2	7.3	-1.1
10月 上旬	11.2	10.9	0.3	17.7	16.9	0.8	5.5	5.3	0.2
10月 中旬	5.2	8.4	-3.2	10.8	15.0	-4.2	0.4	2.6	-2.2

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
9月 下旬	15.5	21.0	-5.5	48.3	61.5	-13.2
10月 上旬	0.0	30.5	-30.5	53.2	57.2	-4.0
10月 中旬	4.5	22.8	-18.3	48.4	53.0	-4.6

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

1) とうもろこし(サイレージ用)

作 況：やや良

事 由：収穫期は平年より1日遅い9月25日であった。収穫時の稈長は平年より11cm長く、子実の熟度は黄熟初期と平年並で、総体の乾物率は平年より低かった。乾物茎葉重は平年より多く、乾物雌穂重は平年並で、乾物総重および推定TDN収量は、それぞれ平年比106%、105%と平年よりやや多かった。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
収穫期 (月.日)	9.25	9.24	1
収穫時の熟度	黄熟初期	黄熟初期	-
稈長(cm) (9月20日)	283	272	11
生総重(kg/10a)	7609	6567	1042
乾物茎葉重(kg/10a)	1055	933	122
乾物雌穂重(kg/10a)	1042	1047	△5
乾物総重(kg/10a)	2096	1979	117
同上平年比(%)	106	100	6
推定TDN収量(kg/10a)	1499	1432	67
同上平年比(%)	105	100	5
総体の乾物率(%)	27.6	30.2	△2.6
乾雌穂重割合(%)	49.7	52.9	△3.2
有効雌穂割合(%)	100.0	99.3	0.7

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 大豆 作況：やや不良

事由：成熟期は平年より1日遅い9月24日であった。主茎長、主茎節数、分枝数はいずれも平年をやや下回ったが、着莢数は平年をやや上回った。子実重は平年比95%とやや低収であった。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	9.24	9.23	1
主茎長(cm) (成熟期)	67.7	72.9	△5.2
主茎節数(節) (成熟期)	10.9	11.2	△0.3
分枝数(本/株) (成熟期)	4.5	5.3	△0.8
着莢数(個/株) (成熟期)	73.4	69.3	4.1
子実重(kg/10a)	357	376	△19
同上平年比(%)	95	100	△5

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

3) 小豆 作況：不良

事由：登熟は遅れ、成熟期は平年と比べ「サホロショウズ」で15日、「エリモショウズ」で12日遅かった。両品種ともに着莢数が平年をかなり下回り、子実重は「サホロショウズ」で平年比79%、「エリモショウズ」で同87%と低収であった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	9.29	9.14	15	10.2	9.20	12
主茎長(cm) (成熟期)	71.6	93.7	△22.1	67.0	79.4	△12.4
主茎節数(節) (成熟期)	12.5	14.4	△1.9	13.4	14.6	△1.2
分枝数(本/株) (成熟期)	2.3	4.4	△2.1	2.8	4.4	△1.6
着莢数(莢/株) (成熟期)	40.7	58.9	△18.2	44.7	60.3	△15.6
子実重(kg/10a)	312	395	△83	351	405	△54
同上平年比(%)	79	100	△21	87	100	△13

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

4) 菜豆

作況：やや不良

事由：百粒重は平年を上回ったが、着莢数および一莢内粒数が平年を下回ったため、子実重は平年比94%とやや低収であった。色流れ粒が多く、屑粒率は平年より高かった。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
着莢数(莢/株) (成熟期)	17.2	21.0	△ 3.8
一莢内粒数	2.68	2.94	△0.26
子実重(kg/10a)	310	329	△ 19
同上平年比(%)	94	100	△ 6
百粒重(g)	77.7	68.8	8.9
屑粒率(%)	16.2	7.3	8.9

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

3) 屑粒：[下屑粒]+[色流れ粒]

5) ばれいしょ

作況：平年並

事由：「コナフブキ」の枯ちよう期は、平年より4日遅い10月8日であった。上いも数は平年よりやや多かったものの、上いも平均重が平年より10g軽く、上いも重は平年比98%であった。8月上旬から9月上旬まで降水量が少なかったことから、でん粉価は平年より高く、でん粉重は平年比103%と平年並であった。

以上のことから、前報の「男爵薯」と併せ、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯ちよう期 (月.日)	9.7	8.30	8	10.8	10.4	4
上いも数(個/株)	10.8	10.6	0.2	11.3	10.5	0.8
上いも平均重(g)	92	99	△7	98	108	△10
上いも重(kg/10a)	4423	4613	△190	4901	5010	△109
同上平年比(%)	96	100	△4	98	100	△2
でん粉価(%)	16.5	14.9	1.6	23.1	22.1	1.0
でん粉重(kg/10a)	—	—	—	1085	1058	27
同上平年比(%)	—	—	—	103	100	3

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均。

6) てんさい

作 況：平年並

事 由：収穫は、平年より2日早い10月18日に行った。この一か月間は低温傾向で経過したため、根重は平年を下回ったままであったが、最低気温が平年並～低かったため、根中糖分は引き続き平年を上回った。このため、糖量はほぼ平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重 (kg/10a) (10月20日)	3603	3811	△ 208	4690	4486	204	3950	4541	△ 591
根重 (kg/10a) (10月20日)	7267	8073	△ 806	6730	7522	△ 792	5977	6599	△ 622
根中糖分 (%) (10月20日)	18.47	16.71	1.76	19.44	17.80	1.64	18.65	17.00	1.65
糖量 (kg/10a) (10月20日)	1342	1345	△ 3	1308	1331	△ 23	1115	1119	△ 4

注1) 平年値は前7か年中、平成22年（最凶）、26年（最豊）を除く5か年の平均。

7) 牧草(チモシー)

作況:不良

事由:3番草の収穫は平年並の10月4日に行った。2番草収穫(8月10日)後、全般に平年より低温で降水量が少なかったことから3番草の草丈は平年より13cm低く、生草収量は平年の3分の1程度しかなかった。また、乾物率は平年より高かったものの、乾物収量は平年比41%にとどまった。このことから1~3番草の合計乾物収量は、平年比89%と平年を11%下回った。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
刈取日(月.日)	3番草	10.4	10.4	0
病害罹病程度	3番草	3.3	3.1	0.2
草丈(cm)	3番草	33	46	△13
生草収量(kg/10a)	3番草	241	711	△470
	1~3番草合計	3429	4466	△1037
乾物率(%)	3番草	30.4	26.1	4.3
乾物収量(kg/10a)	3番草	73	178	△105
	1~3番草合計	845	953	△108
同上平年比(%)	3番草	41	100	△59
	1~3番草合計	89	100	△11

注1) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、27年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。